



## 特集

卒業・修了制作展は「美・工」生活の総決算！  
見よ、このクオリティの高さを！

## 研究紹介

海洋温度差発電への挑戦

## 活躍する佐大OB

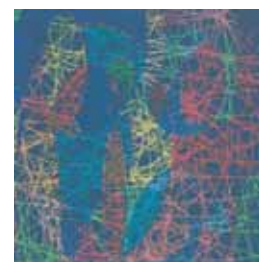
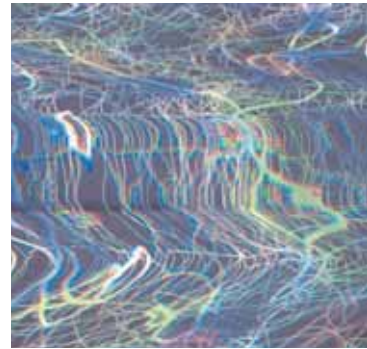
佐賀大学から  
プロサッカーへの道  
サガン鳥栖DF15  
鐵戸 裕史さん

## 羽ばたくOB

佐賀大学から  
オックスフォード大学修士課程へ  
Oxford大学修士課程  
林 裕子さん

## 広報室イベント

佐賀大学を東京でPR  
etc





# 卒業・修了制 「美・工」生活 見よ、このク

大都市圏の美術系大学等と比べると比べるならば、文化教育学部美術・工芸課程は、学生数が極めて小規模の美術集団です。設備面も決して贅沢ではありません。それでも、若々しいチャレンジ精神と粘り強さ、そして何より美術や工芸に寄せる熱い思いが、彼ら彼女らの感性を大きく華麗に花開かせるのです。



今年の卒業・修了制作展は、3月4日(火)～3月9日(日)の日程で佐賀県立美術館にて開催されました。



# 作展は の総決算！ オリティの高さを！



## 2007年度の「美・工」の実績(受賞・入選)

- <全国・西日本等>
- ・朝日陶芸展 グランプリ(史上最年少受賞)
  - ・新制作協会展 入 選
  - ・再興日本美術院展 入 選
  - ・白 日 展 入 選
  - ・日本彫刻会展 入 選
  - ・昭 和 会 展 入 選
  - ・二 紀 展 入 選
  - ・九州新工芸展 大 賞(染色部門)

## <佐賀県内>

- ・佐賀美術協会展佐賀美術協会賞
  - ・佐賀美術協会展佐賀県知事賞
  - ・佐賀美術協会展県立美術館長賞
  - ・佐賀美術協会展鍋島報効会賞
  - ・佐賀美術協会展佐賀市長賞
  - ・佐賀美術協会展奨 励 賞
  - ・佐賀美術協会展緒 方 賞
  - ・佐賀美術協会展鈴 田 賞
  - ・佐賀美術協会展佳 作 賞
- (入選者は多数のため省略)

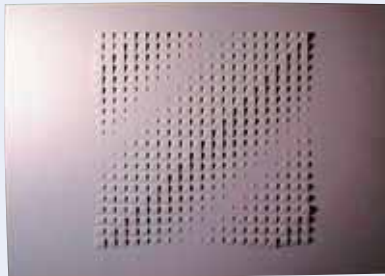
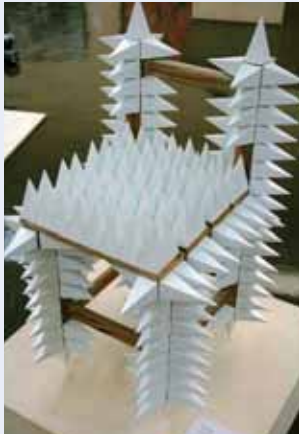
これらの輝かしい実績の背景として、学生の課外での自主的・積極的な活動を教員が奨励していることや、教員集団も高いレベルの制作研究を展開しながら学生諸氏に刺激を与えていることが見逃せません。







# 佐賀大学のアー 文化教育学



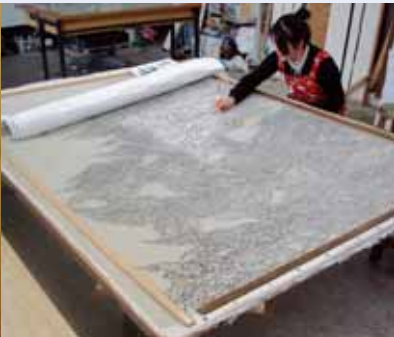
様々な公募展への出品、個展やグ「総合展」の開催、そして、佐賀大学課程の学生達は年間を通して実に活発題制作などとは別に行なわれているのまた、学園祭の「みこし」制作へのじけぶりには、理屈抜きで圧倒されても固い集団です。伝統工芸の豊かな歴形美の可能性を開拓するべく、今日も



# トの拠点、 部「美術・工芸課程」だ！



本誌裏表紙の「誌上ギャラリー」に毎号登場する個性的な美術作品。これらは実は、美術・工芸課程の学生作品のうちのごく一部でしかありません。ときには熱く、ときにはクールに、美術表現の可能性を日々追究し続ける彼女らの姿を紹介します。



グループ展、地域行事への参画、さらに在学生全員による自主企画での学修・研究の総決算である「卒業・修了制作展」。美術・工芸に活動しています。しかも、これらの活動は、普段の授業での課ですから、そのエネルギッシュさには驚かされます。異様なまでのこだわりや、コンパで見せる呆れるほどの(?)はしまいます。学年や男女の別を問わず、みんな実に仲が良く結束史を持ち、現在も美術愛好者が多い佐賀の地において、新たな造佐大の「美・工」は走り続けているのです。

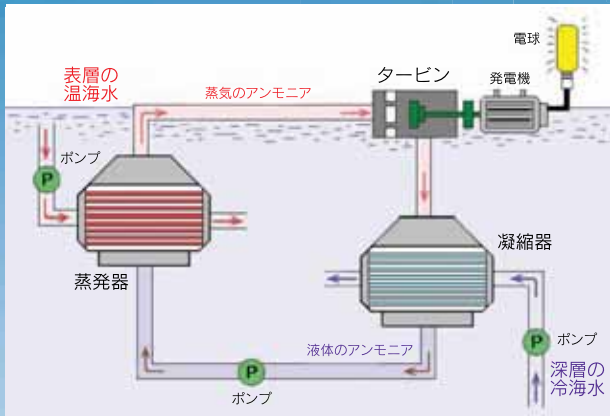




小さい温度差からエネルギーを創生する

# 海洋温度差発電

## — 全国共同利



海洋温度差発電の原理  
(アンモニアを用いた海洋温度差発電の概念図)



熱交換器基礎実験室  
海洋温度差エネルギーなど、利用できる温度差が小さい場合には熱交換器の性能がきわめて重要になります。プレート式熱交換器を中心に、各種の形式の熱交換器の基礎的・応用的研究や熱交換器の性能評価を行っています。



海水取水管  
海洋エネルギー利用技術の研究開発では、特に実海水を使った研究が不可欠です。実海水を使った熱交換器の生物汚れ、温度変動の影響、実海水から淡水化、実海水からのリチウム回収などの研究のために、1日約1,000トンの水を汲み上げることが可能です。

の学術賞を4件受賞しました。  
センターで取り組んでいる主な研究内容は、海洋温度差発電と波力発電です。海洋温度差発電は、表層海水の温度25℃と表面から800～1000mの深層海水の温度5～6℃との温度差20～25℃を利用して発電しようとする装置です。発電の原理自身は、熱力学の法則に従うものですが、20～25℃という小さい温度差から発電しようとする点が学術的挑戦です。また、この研究成果はこれ以上の温度差がある未利用のエネルギーから発電できることの実証となり、CO<sub>2</sub>削減による環境問題からも広く期待されています。

波力発電は、海洋波の持つ位置エネルギー、運動エネルギーを利用して発電するシステムです。本センターでは、新たに「後ろ曲げダクトブイ」(浮体式の振動水柱型波力発電装置)を用いた発電装置の開発を行っています。「後ろ曲げダクトブ

イ」は、高い発電効率が期待され、係留コストも安価であるという長所が報告されていますが、未だ実用化には至っていません。私たちは、この波力発電装置の実用化をも目指して研究を行っています。

また、海洋エネルギー研究センターは、設置の目的として地域への貢献と地域との連携を掲げています。国際的な研究や身近な研究を通じて、その成果を世界に向けて地域と共に情報発信を行いながら、地域の知的基盤形成や地域産業の活性化に貢献したいと考えています。平成14年4月には、佐賀大学と伊万里市は、「伊万里における知的基盤形成と新産業創出に関する協定」を結んで積極的に連携の強化を図っています。

※日本の大学に世界最高水準の研究教育拠点を形成し、研究水準の向上と世界をリードする創造的な人材育成を図るため、重点的な支援を行うことを通じて、国際競争力のある個性輝く大学づくりを推進することを目的として、平成14年から文部科学省の事業として措置された。





# への挑戦 用センターへー



## 海洋温度差発電及び海水淡水化実験室

本センターで発明されたOTECサイクルを用いた海洋温度差発電の基礎的、実証的研究とともに、海水淡水化装置を組み合わせたハイブリッドシステムの研究を行っています。



地球規模でのエネルギー問題と環境問題が顕在化する中、地球にやさしいエネルギー開発が望まれています。海洋エネルギー研究センターは、平成19年4月から正式に全国共同利用センターとなり、日本における海洋エネルギーの研究拠点として新たなスタートを切りました。海洋エネルギーに関連する30数件の共同研究を全国の大学や研究機関と現時行っています。

### I 基幹部門

- （海洋エネルギーを創造するための基礎的応用的研究を主目的とする）
- ・海洋温度差エネルギーシステム分野
- ・海洋流体エネルギーシステム分野

### II 利用・開発部門

- （海洋エネルギーの利用などに関連する研究・開発分野を主目的とする）
- ・海洋エネルギーシステム分野（制御など）
- ・海洋エネルギー物質創生分野（水素、リチウムなど）
- ・海水淡水化分野
- ・海洋エネルギー環境情報分野（海洋情報、海洋環境評価及び環境保全など）
- ・海洋深層水利用科学技術分野（バイオ、生体など）
- ・海洋エネルギー利用推進分野（環境法、人材育成、教育分野、国際教育、IT教育）

センターは、21世紀COEプログラム（※）の支援を受け、海洋エネルギーに関する数多くの研究成果を上げると同時に、この5年間で国際的な賞を3件、国内で



## リチウム回収実験室

リチウム回収装置では、佐賀大学で開発されたリチウム吸着剤を充填した分離カラムを中心として、海水導入部、リチウム濃縮部、リチウム晶析部および全プロセスを自動運転する管理システムから成っています。



## 海洋エネルギー研究センター長

もん で まさ のり  
門 出 政 則







学4年の冬、人生初の就職活動。もちろん私の場合にはプロチームのセレクションを受けること。この年は、2チームを受けましたが不合格。翌年も5チームのセレクションを受けましたが不合格。さすがに「強い意志」も砕けそうになりました。大学まで行かせてもらって就職もせず、自分のやりたいことをやらせてもらって：その結果、どこにも合格する事が出来ず、両親や支えてくれた方々に申し訳ないけれど諦めようかと悩みました。しかし、そんな時私の背中を押してくれたのは大学生生活の中で得た仲間であり、人生の先輩であり、親でもありました。サッカー部の部長である私の人生の先輩は「まだ若いんだから2年なら2年、3年なら3年、とにかく精一杯やればいい。」と一杯やってダメなら悔いも残らんやろ。途中で投げ出すのが一番つまらん。」と、私の挑戦をいつも応援してくれました。そして、一番の力となった父の言葉。「たった一度の人生、悔いのないように。はつきりしていることは、お前の人生だということ！」。本当に人との出会いはかけがえないものだと思います。

目指すところへいくことは、本当に大変なことです。もちろん自分ひとりの力では辿り着くことはできなかつたと思います。たくさんの人と出会い、繋がりを大切にし、強い意志を持つこと。それが私が大学生活で学んだ事です。そしてこれからも、これらを大切にしていこうと思います。佐賀大学に在学中の皆さん。これまでに出会った人・これから出会う人を大切に。



サガン鳥栖…1999年Jリーグ加盟。ホームタウンは、佐賀県鳥栖市。チーム名の「サガン」は、小さい砂粒が固まって砂岩になるように力を結集することを表す。また、「佐賀の」にも通じる。2008年、J1昇格を目指す。





# 佐賀大学から プロサッカーへの道

サガン鳥栖 DF15

平成 17 年 3 月 経済学部経済法律学科卒

てつ 戸 裕 史さん

「たった一度の人生、悔いのないように。はつきりしていることは、お前の人生だということ！」。父が私に贈ってくれたこの言葉。この言葉がなかったら、いまプロとしてサッカーをすることはできなかったと思います。

私が佐賀大学に入学したのは今から約8年前、入学当時「プロになりたい」という思いより、好きなサッカーを続けようという気持ちでサッカー部に所属しました。当時のサッカー部は部員全員で20人

ん。ただ、そんな環境の中で同じ時間を共にする仲間、どこにも負けないくらい素晴らしい仲間でした。あるときは月明かりの下で遅くまでボールを蹴ったり、またあるときは夜明けまで語り合ったりと、サッカーのことになると人一倍熱くなる最高の仲間でした。尊敬できる監督、頼れる先輩、そして信頼できる友。ある意味では最高の環境だったのだと思います。この環境と大切な仲間との出会いが、私の人生の大きな転機でした。私が大学生活から学んだ二つの大きなもののうちの一つが、人との出会いの大切さ、繋がりの大切さ。「一期一会」です。

そして、もう一つ私が大学生活から学んだもの、それは「強い意志」を持つということ。どんなに人数が少なくても、どんなに設備が整っていないなくても、ボール一つあれば一人でも練習できる。筋トレをするための器具がなければ走れば良い。自分がおかれた環境をネガティブに捉えるのではなく、ポジティブに考えることが自然と身に付いたような気がします。そこに強い意志があれば、ネガティブに思えることもポジティブに変えていける。そんな気がします。上も下も見ればキリがない、自分がおかれた環境で何が出るのか。より上を目指すにあたり何をすればいいのか。強い意志を持つことが自分を高めていくために必要なことなんだということを学ぶことが出来ました。ただ、どんなに「強い意志」があっても全てがうまくいくわけではない。それが人生というものなのかなと思います。大

自分の目指すところへ強い意志を持って

## 佐賀大学からオックスフォード大学修士課程へ

早いもので、Oxfordに来て4ヶ月が経とうとしております。私は佐賀大学文化教育学部を2007年3月に卒業後、文部科学省「大学教育の国際化推進プログラム(長期海外留学支援)」の支援の下、Oxford大学の修士課程(MSc in Applied Linguistics and Second Language Acquisition)に在籍し、2007年の10月より応用言語学・第二言語習得について勉強し、研究を進めております。名門大学というだけあり、授業のレベル、課題の量、学生間の競争等想像をはるかに上回っており、そのレベルについていくのに必死になっている状態ですが、日々良い刺激を受けながら、恵まれた環境の中で勉強を進めることができます。

1学期目は4つのモジュールを受講し、学期末に試験の一環として4つの論文を書き上げました。学期中、何度も壁にぶつかることはありましたが、予習・復習を怠らずに受講し、コースの学生や指導教官の先生方と話し合う機会を十分に持った結果、困難を無事に乗り越えることができました。学業面で専門分野における知識を深めたほか、日々の生活の中では、何事も抱え込まずに「話すこと」、「仲間とのコミュニケーションを活用すること」の大切さを改めて実感した1学期となりました。

現在、私はOxford大学のウォルチェスターカレッジという伝統ある美しいカレッジに所属しております。残念ながら、ハリーポッターの撮影の舞台となったカレッジ(Christ Church College)ではありませんが、ハリーポッターの映画に出てくるダイニングホールは私が所属するウォルチェスターにもあり、制服であるガウンを着て正装し、定期的に食事をとっています。入学式にて着ている洋服が制服です。

現在は2学期目が始まり、新たに4つのモジュールを受講しております。今学期は修士論文の作成に本格的に取り組むため、1学期目より更に勉強、課題の量が増えます。しかしそうは言いながらも、やはり「楽しむこと」も大切ですので、時間を有効に使う方法を見出すことも今学期の目標にしたいと思っております。



文部科学省  
「大学教育の国際化推進プログラム」  
(長期海外留学支援)  
Oxford 大学修士課程  
はやし ゆう こ  
林 裕 子 さん  
2007年3月 文化教育学部卒



学友とともに

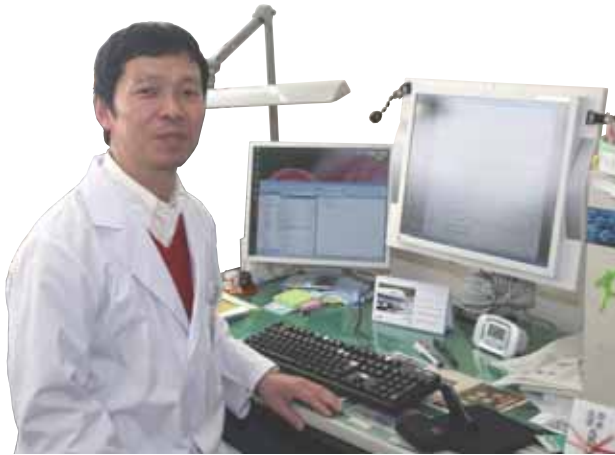


Oxford 大学の入学式



# 世界初!

## 「膜性腎炎」のモデルマウスを開発



医学部分子生命科学講座  
生体機能制御学分野 教授  
よし だ ひろ き  
吉 田 裕 樹

### ■糸球体腎炎という病気

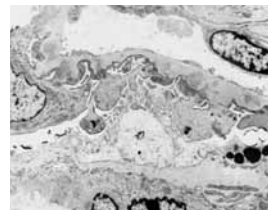
腎臓は体の中の老廃物を尿中に排泄する働きを持つ臓器で、腎臓の機能が落ちると人工透析が必要になる場合もあります。老廃物の排泄は、腎臓の中の糸球体と呼ばれる組織が行っていますが、この糸球体で炎症が起こると(糸球体腎炎)老廃物を排泄する機能が損なわれてしまうわけです。糸球体腎炎は、その症状や顕微鏡で見た組織の変化によっていくつかのタイプに分類されていますが、その中で「膜性腎炎」と呼ばれるタイプの糸球体腎炎は、通常病気の進行こそ遅いものの既存の薬に反応しないことも多く、治療法も確立されていない難病の一つです。



膜性腎炎の変化を示す、腎臓内の糸球体の組織

### ■膜性腎炎モデルマウスの開発

治療薬の開発や効果判定、あるいは治療法の確立のためには、ヒトの病気と同じ病態を呈するモデル動物が役に立ちます。私たちの研究室では、特定の遺伝子を人工的に欠失させたマウスの作成(2007年ノーベル医学生理学賞の研究テーマです)により、膜性腎炎を自然に発症するモデルマウスの開発に成功しました。



膜性腎炎の変化を示す、糸球体の電子顕微鏡写真

### ■インターロイキン27の役割

免疫反応を調整する蛋白の一つにインターロイキンと呼ばれる物質があります。このインターロイキンの一つIL-27が作用しないように遺伝子操作を行ったマウスでは、無処置のマウスで見られる増殖性糸球体腎炎(炎症により糸球体の中で細胞が増えることにより生じる腎炎。膜性腎炎とは別のタイプ)が生じなくなり、症状も顕微鏡による解析でもヒトの膜性腎炎と全く同じ状態を示すことが分かりました。このマウスは、世界で初めて開発された膜性腎炎自然発症モデルマウスであると同時に、IL-27による免疫調節が腎炎のタイプを決める重要な要素であることを明確に示しています。

### ■糸球体腎炎治療への展望

このマウスは、膜性腎炎の治療薬の効果判定や治療法の確立に役立つほか、どうして膜性腎炎が発症するのか、病気の本質を解明するための重要な研究対象となります。面白いことに、逆にIL-27の効果を強めると無処置マウスで起こる増殖性腎炎も生じなくなることから、IL-27で腎炎を治療することも可能になるかもしれません。IL-27は糸球体腎炎のタイプを変えたり病気を抑えたりする可能性を持つ面白い物質です。私たちの研究室では、このIL-27の研究をさらにすすめ、糸球体腎炎の解明や治療法の確立、さらには免疫反応におけるIL-27の役割の解明を目指していきます。



モデルマウス



2002年の春、桜が咲く季節に、夢を抱いた私は日本へ来ました。今年になって、六年目を迎えました。留学の道は自分で真剣に選びました。そして、この道がどんなに大変でも、文句は言わない、簡単にあきらめない、最後に成功するまでは頑張らなければならないです。

留学は私にとって、ただ学校の知識を習うことではなく、もっとも大きい人生の勉強です。

今までの日本留学生活は、酸っぱい・甘い・辛いあらゆる味が入っています。楽しみより苦しみが多い、喜びより悲しみが多いことでしたが、それは人生の始まりで、成功者になるまでの鍛錬と思っ、留学の情熱が増える一方で、今までの大変だったこと、悲しかったことは私にとって、不思議な勉強になり、とても成長できました。人生は簡単なことではないです。かなり前に親からその話を聞いたけど、そのとき全然分かっていませんでした。でも今は少しずつ分かってきました。人は生きていくことさえ難しいです。さらに、良い人生を作るのは強い責任感と正しい人生観が必要です。人が生きているのはただ自分のためではないです。親のため、子供のため、家庭のため、社会のためなどとても重いです。ただ自分のためしか考えてないなら、楽にできるけど生きている意味がなくなります。

## 強い責任感と正しい人生観が必要

周りの優秀な日本の方の影響があって、自分の考え方もあって、人生のことを理解しながら、自分の人生を作っています。大学四年生の私は将来の夢を持ち、大学での勉強、国際交流活動、ボランティア活動、アルバイトなどを通じて、日本社会の経験を増やし、時間に追われる毎日を充実して、満足しています。来年三月卒業になり、四月大学院に進学するために、頑張って良い卒業研究と論文を組み立てています。

私は卒業後、まず日本の企業に就職して、今以上に精進し、技術などを勉強してから、中国に帰って研究機構などに入り、日本で学んだ技術と経験を基に、関連学科の研究をしたいと思っています。

そして、これからの中国の益々の発展に貢献したいと思っています。また日本にいた経歴を生か

し、日中の新たな技術交流を促し、日中友好に貢献するために頑張ります。



理工学部  
知能情報システム学科(中国)  
りゅう りれい  
龍 莉麗



こんにちは。ネパールのHom ナト ルイテル と申します。大学院博士課程で化学の勉強をしています。ネパールはエベレストのある国でもあり、一年中雪に覆われているヒマラヤ山脈が国土の15%を占める国です。8000 m以上の14のヒマラヤ山脈のうち10はネパールにあります。仏陀の生誕地でもあります。ヒマラヤの美しい景色や、湖、滝、珍しい動物のいる美しい国です。是非一度訪れてみてください。

私達は、日本のきちんと整備された環境のなかで勉強を続けることができ本当に良かったと思っています。私は、電子セラミック材料工学研究室の渡先生の指導の下で、信号機のようなディスプレイに使われるリン発光体物質の研究をしています。

日本に初めて来た頃は、ことばや南アジアとは違う文化の違いに苦労しました。すべてのことが全く初めてだったし、それに、ネパールの家族も恋しかったです。友達や旅行やアパートを探すなどコミュニケーションをとるのが特に難しかったです。また、実験室での器具の説明は完全に日本語で書かれていたので、はじめは全く分かりませんでした。日本語を学ぶにつれて、少しずつではありますが慣れていき、今も将来のために勉強を続けています。

温泉はリラクゼーション効果があります。日本人は働きすぎて疲れているから温泉は人気なのでしょう。私も佐賀近郊の温泉に行きました。福岡や大分などとてもよかったです。佐賀バルーンフェスタやライトファンタジー・花火など忘れられません。イベントにもいろいろ参加しました。生け花や陶芸教室など、日本のお年寄りの方々と話す機会があって本当に面白かったです。

ネパールと比べて日本人は忙しいそうです。毎日朝8時から夜10時まで働いている人もいます。

## いろいろな出会い、感謝

自由な時間がほとんどないようです。何でも高いので、普通の暮らしを維持するためには一生懸命働かないといけません。それと、とても違いを感じたことは、家族生活が難しいです。日常が忙しいため別々の職場で過ごす時間が長く、いっしょに家で過ごす時間が少ないです。お盆やお正月でもあまり長くいっしょにいません。ここでは、みんな孤独です。お年寄りももっと寂しく、面倒をみてくれる家族がいません。ネパールでは、経済的に貧しく生活水準は低いですが、家族仲良く暮らしています。

一方、日本の若者達はうらやましいです。何でも揃っていて、したいことは何でもできるし、望み通りに楽しく過ごせます。

日本でいろいろな出会いがあり、助けて頂いてとても感謝しています。特に、井上さんをはじめ研究だけでなく日常生活もお手伝いをしてくれる友達がいっぱい。みんなフレンドリーで、いつも助けてくれます。外国人をできる限り手助けをしてくれようとしてくれてます。加えて、授業や研究に携り、問題に直面した時アドバイスをくれる先生方。私の親のように面倒をみて下さいます。国際課の皆様など、手助けをして下さってありがとうございます。そして最後に、佐賀大学で留学生のお世話をして下さる皆様に本当に感謝しています。



工学系研究科博士後期課程1年  
(ネパール)

Hom Nath Luitel







一年半前、日本の文部科学省プログラムにより日本に留学することができました。

そのプログラムは、Teacher Training というもので、佐賀大学教育学部美術教育学部にて一年半の間、日本の教育方針について学ぶことが出来ました。留学当初私は、日本美術とコスタリカ美術を比較でき、色々な文化の違いを学ぶことが出来て、日本の良い面を吸収できると思っていて、とても楽しみにしていました。

コスタリカでは、中学校と高等学校の教員を6年間務めました。コスタリカでの教員生活は、生徒と楽しく過ごすことが出来ましたが、教育に関しては、どこか違和感を感じていました。そのころから自分の心の中で、まだいろいろな教育方法があり、自分の知らないこと、自分自身の成長の必要性などを痛感し始め、教育に対して先進国の方針に興味を持つようになりました。この興味は、私が大学を卒業した時からずっと、持ち続けていました。

もし、私が大学卒業後すぐに日本へ留学をしていたならば、自信もなく、また何を学べばいいのか、コスタリカに帰った時になにが役に

### コスタリカでの教育を見直すため

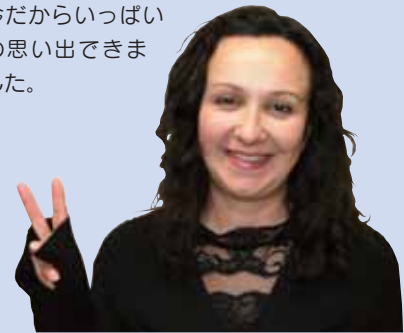
立つのか、どのような教育方針の違いがあるのか、などがわかることが出来なかったでしょう。

私の6年間のコスタリカでの教員生活というものが、一つのベースにあって、もう一つは自分の子供を学校に行かせることで教育の違いのところからを見つけ、今は日本での経験に良い意味でつながっていると思います。

佐賀大学に来た理由は一つかも知れない、でもその理由はこの経験を通して学ぶことができたことや、たくさんの愛情と思い出に比べると、ずっと小さいです。教育は学校の中だけではなく教育と言うのはどこでも人がいるところにあることをおもいだしました。

今、私の心の中にはコスタリカに持っていくものがいっぱいあります。

今だからいっぱい  
の思い出できました。



大使館推薦  
教員研修留学生(コスタリカ)  
モントヤ アンヘリカ  
MONTOYA ANGELICA MARIA



私はインドネシアからの留学生です。佐賀大学に入って6年経ちます。佐賀大学に留学して一番よかったと思っているのは、私の専攻、電気電子の勉強ができるだけでなく、様々な交流の場で、コミュニケーション力を磨くこともできることです。

そもそも交流とは「ちがった系統のものが互いに入りまじること。また、入りまじらせること」をいいます\*。ちがった系統が混じるのだから、交流により、必ずいい結果が出るとは限りません。それぞれの要素が自らの違いを理解し、それを相手の違いと調和するために何かをしようとして始めていい結果が出ると思います。だから、交流にはコミュニケーション力や分析力が必要とされます。

### 本当の交流は佐大生との交流にあり

本当の交流の場は交流行事のときではなく、他の日本人学生と会話をしているときや、飲み会、研究室の中などといった日常生活にあると私は思っています。来年からとうとう社会人になりますが、佐賀大学で学んだ交流体験を生かしていきたいと思っています。

\* 広辞苑  
第五版



大学院工学系研究科2年次  
電気電子工学専攻電子回路研究室  
(インドネシア)  
トーマス アグン ヌグラハ  
Thomas Agung Nugraha



# 佐賀大学を東京でPR

— 高島屋新宿店で開催された「大学は美味しい!!」フェアに出展 —



佐賀大学は、平成20年2月16日(土)から20日(水)までの5日間、高島屋新宿店にて開催された「大学は美味しい!!」フェアに出展しました。これは小学館の雑誌に掲載された大学ブランド商品を一同に販売するという企画で、全国国公立24大学が参加しました。本学からは、農学部で研究された話題の新野菜「バラフ」、本学企画のオリジナル清酒「悠々知酔」、全国でもめずらしい有機栽培の「棚田米」を出品しました。

「バラフ」は、以前からさまざまなメディアで取り上げられていたこともあり、開店直後から多くの方々が「バラフ」を目当てに買いに来られ、試食された方は「キラキラしていてきれいですね」とか「しゃきしゃきしていてすごくおいしい」と大評判でした。初日の夜のNHK全国ニュースにも取り上げられたこともあって、開催期間中は、用意した200～300パックが連日午前中で完売する大盛況ぶりでした。

「棚田米」も、販売員となった職員が、販売には不慣れながらも、本学学生が作った「安心安全なお米」であることを熱心に説明した成果もあって、用意した100袋は完売しました。

「悠々知酔」は、他のいくつかの大学が日本酒を出品していたにもかかわらず、たくさんの方が試飲し、飲み易く、美味しいと好評で、予想をはるかに超えた売り上げとなりました。

佐賀大学のPRと地域貢献及び研究成果の発表を兼ねての今回のこのフェアへの参加でしたが、訪れたたくさんの方々と接することができ、大いに本学のPRに役立ちました。



## 編集後記

今、大学は熱い。本号でも紹介しているように、大学開発商品の物産展「大学は美味しい」フェアに出展したが、各大学の熱意は並々ならぬものがあり、フェア自体が大盛況だった。佐大商品も予想以上の大反響で、佐大の存在を大都市東京で十分アピールできた。来年度も「熱い佐大」の紹介に、ご期待下さい。  
(広報室長 早瀬 博範)





佐賀大学鍋島キャンパス(医学部)  
男子バレーボール部 主将  
こ ばたけ とも き  
**古 畑 友 基**  
医学科 4年

私たちのチームは、プレーヤー8名、マネージャー4名の計12名で活動しています。活動は毎週3回、鍋島キャンパス体育館で行っています。

2年前、九州山口地区医科学生大会・西日本医科学生大会ともに優勝を飾るなど、好成績を残してきましたが、主力だった6年生が昨年卒業し、今は新たなチームで何とか強くなろうと部員全員練習に励んでいます。



実は私は高校では部活動を真面目にはやっていませんでした。バレー部を辞めていた時期もあったし、毎日の練習にも行ったり行かなかったりしていました。ですが今、こうして大学で真剣に部活動に取り組むことができるのは、バレー部がいい先輩に恵まれていたからです。

バイトも部活も、決して楽ではない勉強も、全てにおいて真摯に取り組む先輩方を尊敬し、真剣に取り組むことでしか得られない達成感や充実感があることを教わりました。自分が先輩から教えてもらったように、自分も少しでも何か後輩に伝えることができればいいと思います。

今のチームは、リベロを含むと7人で行うスポーツでプレーヤーが8名しかいないという厳しい状況ですが、部員一

人ひとりの責任感と連帯感は一層強い良いチームです。皆で楽しくバレーがしたい、そのためには勝ちたい、という熱い気持ちを持った者ばかりで、厳しい練習の中でも皆生き生きとバレーをしています。マネージャーもそんなバレー大好き人間たちを陰から支えてくれ、非常に充実した練習ができています。この良い雰囲気はバレー部の伝統です。その伝統をこの先ずっと後輩に伝えていきたいです。



男子バレーボール部



佐賀大学本庄キャンパス  
男子バレーボール部 主将  
やす かつ じゅん  
**安 方 惇**  
文化教育学部人間環境課程健康福祉スポーツ専修2年

私たちのチームは、現在部員14人で活動しています。練習は本庄キャンパスの体育館で週に4回(火、金、土、日)やっています。部員みんなバレーボールを心からLOVEで、授業中にはなかなか見ることができないような真剣な顔で、集中して、そして楽しむことを忘れず励んでいます。

練習が多く出会いが少ないのでは…など考えている方、大丈夫です。とても強く、優しく、美しい女子バレー部やほかの部活の方ともお友達になれちゃいます。特に女子バレー部とは新歓コンパ、追い出しコンパ、試合後の打ち上げなど触れ合う機会が多く、他にもたくさんの行事があります。

主な大会として、春季リーグ、秋季リーグ、九州インカレ、全日本インカレなどがあり、この他に小さな大会もたくさんあります。昨年10月に地元佐賀で行われた秋季リーグでは、友達や親御さん、多くの方の熱い声援もあり、3部に昇格できました。

ありがとうございました。

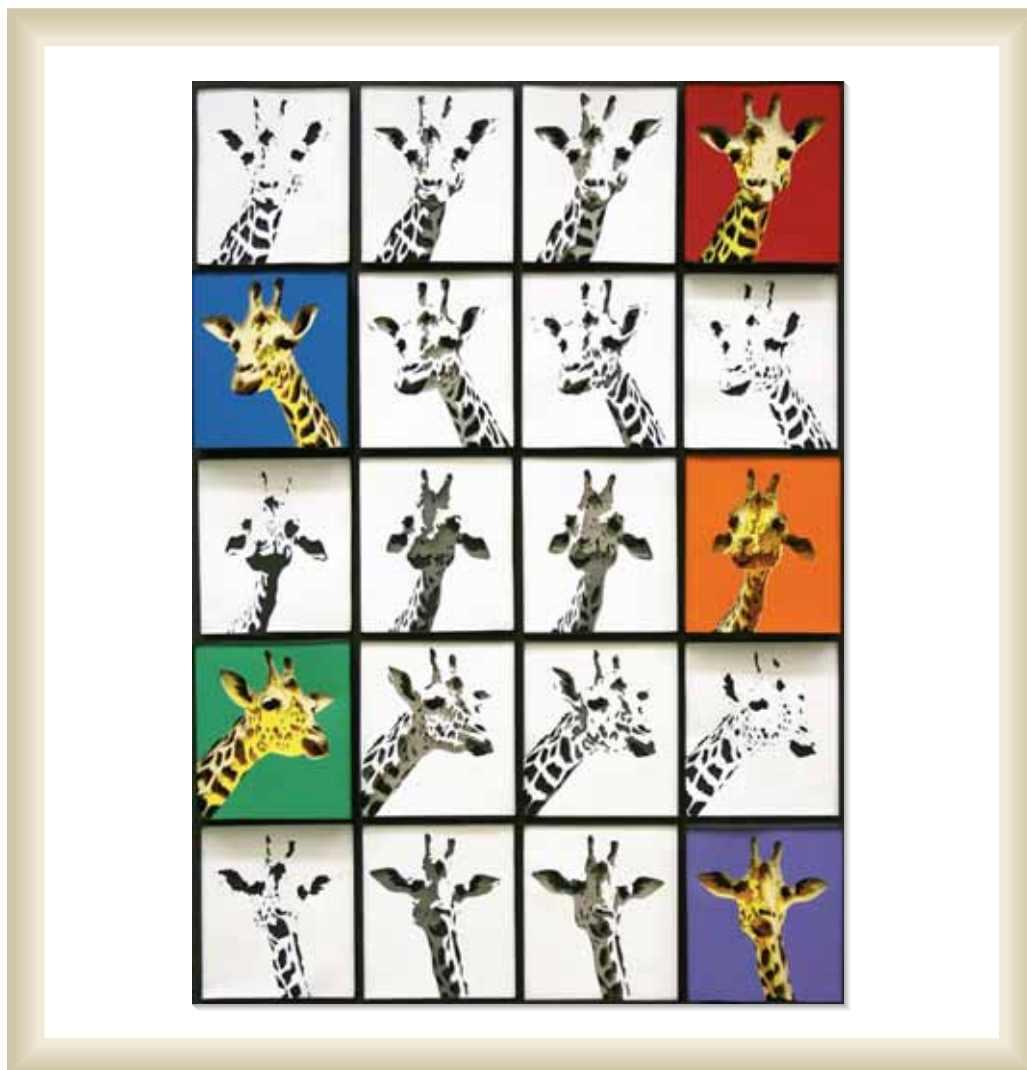
今年5月に行われる春季リーグでは2部昇格目指して頑張りますので、これからも温かい応援よろしくをお願いします。





作品名 「m o m e n t」

いじま ゆり  
井嶋 優里 (文化教育学部美術・工芸課程3年・デザイン専攻)  
(第57回佐賀県美術展にて佐賀県議会議長賞受賞)



【作者プロフィール】

1986年 熊本県玉名市出身  
2005年 佐賀大学文化教育学部入学  
2007年 第57回佐賀県美術展  
佐賀県議会議長賞  
第28回筑後市美術展  
福岡県美術協会賞

【作者コメント】

生きるものは一瞬を重ねて生きていて、一瞬の積み重ねは「過去」、これからの一瞬は「未来」と感じ、紙を使って表現しました。

紙と紙に間を持たせ、表面は紙の平面性を残し、カット部分の重なりによる凹の空間を生み出してみました。

